

高知生まれの航空自衛官、定年後に五島で漁師に！

たにもとしゅんじ

五島ふくえ漁業協同組合 谷本俊二さん 61歳

漁業歴7年

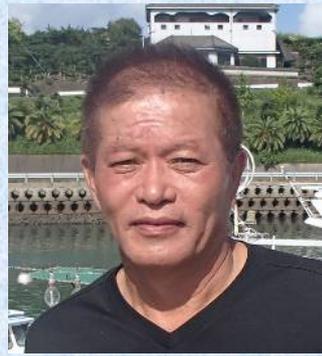
谷本さんは、一本釣漁業(アオリイカ、ケンサキイカ、ブリ、クエ等)を営んでいます。

谷本さんは、高知県四万十町の生まれで、小さい頃は、アユ等の釣りに親しみ、入隊して主に厚生関係等の業務に三十八年間従事しました。定年退職後は、再就職も色々ありましたが、五島に移住して漁師になる道を選びました。定年の一年前頃から五島に何回か来て、小泊町に住む漁業者*2を訪ね、漁師になるための相談をしたり、先に小型船舶の操縦士免許(一級)を取得し、着々と準備を整えました。五島には、約二十年前に福江島航空基地で三年間勤務した経験があり、住み慣れた土地で暮らしたいと思っただけです。

*1 五島ふくえ漁協大浜支所地区
*2 自衛隊時代の友人の義兄

今から7年前に五島に来て、二人の親方から漁業技術の研修を受けて独立しました。最初の頃は、収入が少なく生活は大変でしたが、谷本さんは、いい漁場のポイントがあっても、漁船事故を起こさないように決まっています。また、若い頃は自衛隊の武道大会(銃剣道)の団体戦で優勝する等、体力、気力ともに人一倍優れていました。現在は、今の体力に合わせて無理をせず、出漁を調整しています。最近、やっと水揚げが増えてきて、また、釣った魚をたまに遠方の子供達や母親に送ってあげることが今一番の楽しみだそうです。

小さい頃は遠い異郷の地で自分の船で魚釣りをする第2の人生を送られています。



谷本さん

経歴



所有船(美代丸)

18歳 高校卒業後、自衛隊に入隊

高校生の時は、好きなサッカーと空手をやっていた。卒業前に近所の方から自衛隊を勧められて入隊。主に、隊員達の面倒を見る食事や福利厚生関係の業務に従事。

54歳 自衛隊を退職

銀行や保険外交等の様々な職業の経験を受けるが、自衛隊時代に企業訪問を行った経験から、自分にはサラリーマンは向かないと思い、妻と二人で石川県から五島市小泊地区に移住。

61歳 マイペースで漁業を続けている。

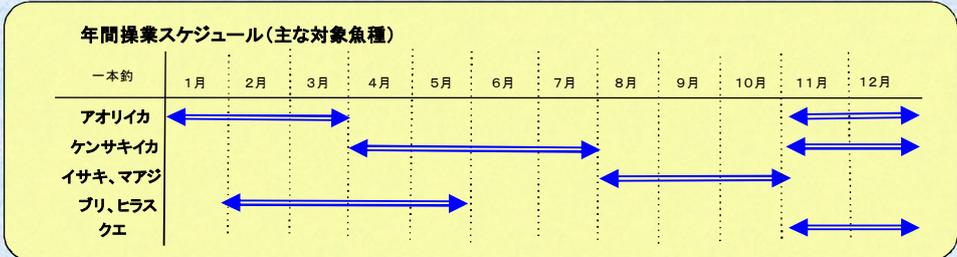
今は、周りの船に迷惑をかけないように漁を行っている。釣った魚を遠方の家族に送ってあげることにも満足している。

谷本さんの一日の様子

(夜釣り)		(昼釣り)	
起床	16	起床	4
出航	17	出航	5
漁場・準備	18	漁場・準備	6
操業	19	操業	7
	3		12
帰港	3	帰港	12
	4		13
出荷	5	出荷	14
	8		

夕方17時に大浜港を出港。漁場まで1時間。漁場選定後、アンカーを打ったり、魚槽の準備。19時から8時間操業。漁場を何回か変える。早朝3時に操業終了。帰路。4時に帰港。漁具へ出荷。漁具・漁船の手入れや片付け。

*出漁は、週に2、3回。



家族(妻)について

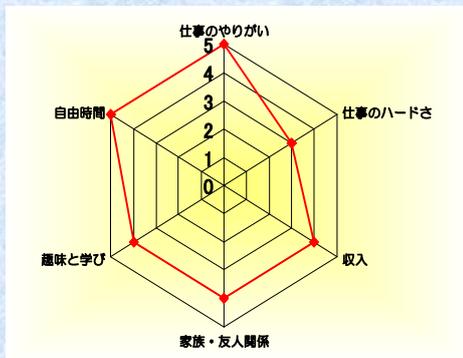
奥さんは、谷本さんから定年退職後の漁業就業について十分説明を受けなかったそうで、五島に移住後、漁業は船一枚下が海の中で、命の危険を伴う職業だということに気づき、相当反対したそうです。現在、奥さんは、谷本さんが漁業にも慣れ、時化の日には借りた畑で家庭菜園を行う等、毎日元気に暮らしていることに満足されています。

また、休日の日には、たまに夫婦揃って島内の温泉に入りに行くことや、毎日、珍しい魚を食べられることに満足されています。

若手の新規就業者に対する支援の必要性
(谷本さんからのメッセージ)

谷本さんは、自身の子育ての苦労と漁業就業時に十分な収入が得られなかった経験から、子育て支援制度を創設すれば、もっと子育て世代の新規就業者が定着するのではないかと、地域全体の後押し的重要性をおっしゃっていました。

谷本さんの本音チャート



「仕事は、やりがいも収入も充実している。また、マイペースで仕事をしているから余暇時間もあり、現状では特に不満はない。」